

2011年4月1日

2011年4月1日 社員に対する社長就任挨拶(要旨)

社長 十倉 雅和

当社は選択と集中をベースとした総合化学路線、つまり「創造的ハイブリッド・ケミストリー」の実践を基本戦略としている。当社の保有する多くの優れた要素技術などを掛け合わせて新しい事業を世に出し、それが他の事業にも相乗効果を発揮していくというこの基本戦略は、適切な「事業戦略」の選択と推進、および、「組織能力」の向上の二つを基盤として推進しており、これはこれからも変わらない。

「事業戦略」としては、これまで石油化学事業の抜本的な競争力の強化、医薬事業のクリティカルマスの確保、将来の核となる新規事業の育成といった課題に対して、それぞれ、ラーベグ計画、大日本住友製薬の発足、情報電子化学部門の育成・拡充といったプロジェクトを推進し、現在、これらの果実をより確実、かつ大きなものとして収穫すべく取り組んでいる。また、事業環境の変化や地球規模の課題に対応し、新しい事業として、エネルギー・環境分野向けの無機材料事業や、次世代 FPD 材料として期待を集める高分子有機 EL などに注力するとともに、豪州ニューファーム社との提携による農薬事業のグローバルマーケットにおけるシナジーの追求や、大日本住友製薬の米国市場への本格進出と統合失調症治療薬ラツォダの米国上市など、各部門においてグローバルオペレーションを本格化している。

これら「事業戦略」を支えるには、強固な財務体質の構築とグローバル経営の深化が重要である。強固な財務体質なくして攻めの経営はできないため、足元の1~2年については現在着手しているプロジェクトの果実を大きく育てることを重視する。また、真のグローバル化とは何か、国内にこだわるものは何かを常に考え、各事業に応じた最適な Globally Integrated Management を推進する。

一方、「組織能力」に関する当社の強みは、談論風発の雰囲気・フェアネスの重視・プラクティカルな行動様式といった誇るべき企業文化と、選択と集中に基づく総合化学路線の下で独自の事業部門制により蓄積してきた組織運営のノウハウである。この「組織能力」に磨きをかけるため、まずは現業重視を徹底し、マーケットや顧客との対話などを一層深化させていく。これを推進する中で、他社が容易に真似ることができない真のベストプラクティスを自らの頭で考え抜き練り上げて欲しい。そして、先を読んだ入念な事前準備の徹底により一層のスピード経営を目指し、組織に一層の活力を加えていきたい。

大切なのは議論ではなく実行と実践である。米倉会長の下、経営陣も一致団結して実行と実践に邁進していくので、常にポジティブな姿勢を忘れずに、必ずやり抜くという強い覚悟を全員で共有し、総力戦を勝ち抜いていこう。

以上